

もう15年くらい前になりますが、私がフルタイムで保育士をしながら子育てをしていた頃、勤務後に佐々木正美先生（児童精神科医）の夜間研修に月1回通っていました。講義は温かく深いお話で、園児の姿を思い浮かべながら、また自分の子育てを振り返りながら聞いていたように思います。

最近久しぶりに佐々木正美先生の本を読んできましたが、子育てで大切なことが詰まっています。その中の一部分を紹介したいと思います。



『過保護』と『過干渉』

～『過保護』はいいんですよ。～

手のかかる子には思う存分手をかけ、子どもの願いをできる限りかなえてあげてください。それは物を買ってあげたり、テレビやゲームを好き放題にさせたり、ということではありませんよ。お母さんの体と心と時間を子どもが望むままに与えてあげるといことです。

～『過干渉』は子どもの自立の芽を摘みます。～

過干渉は、親が子どもに期待し望むことをしすぎることです。子どもが望んでいないことをさせすぎると、子どもはダメになってしまいます。「こうなってほしい」ではなく、「子どもが望むような親」になるのがいいと、そう言っているのです。

参考：『育てにくい子』と感じたときに読む本』児童精神科医佐々木正美 著



その頃「過保護はいいの？」とよくわからなかったのですが、それは、一人ひとりを「ありのまま受け入れる」ということなのだ気づきました。そして子どものために良かれと思って「過干渉」になってしまうのはマイナスなのです。時には子どもが失敗体験をしながら歩いていくことを見守ることも大切です。また失敗しても乗り越える力は「過保護」によって培われる力なのだと思います。

私自身の子育てに反省するところも多ありますが・・・今、子育て真ただ中の保護者の方に、佐々木先生の教えを心に留めておいていただけたら嬉しいです。未来を支える大切な子どもたちの為に。 今月の担当（ワーカーN）